教員名	清水信年

企画名
Student Innovation College （Sカレ）

商品開発型
企業

企画・活動概要

マーケティングを学ぶ全国の大学生およそ400名が参加する商品企画コンテスト（2019年度で第14回を迎えた）。1チーム3名を基本とする各チームが企業から示されたテーマにもとづき約半年間をかけて市場調査、コンセプト構築、試作品製作などを行ない最終プレゼンで審査される。各テーマで1位に選ばれたチームの企画内容は、当該企業によって実際の商品化・事業化が行われる。

経緯・背景・目的

当事業に清水ゼミは第１回から参画しており、毎年度異なる企業にご協力いただいている。支援企業においては、学生視点からのマーケティング提案を自社の課題解決に活用し、また優秀な学生をリクルーティングする狙いがある。大学側においては、実際に当該企業に商品化を検討していただくレベルの商品企画を提案するという実学教育の機会を得ることができるというメリットがある。

取り組む課題

2019年度は、以下のようなテーマが支援企業から示された。（◎印のついたものが、清水ゼミのチームが挑戦したテーマ）

「枡技術と縁起を活用した商品」◎、「クリアシート小物」、「人生がより充実する旅雑貨」、「介護福祉に役立つマグネット」◎、「簡単設置の避難所ブース」◎、「社会課題を解決する印刷製品」、「2020年夏休みの学生旅行」◎、「リポD若年層ユーザー拡大策」

本学（学生）の役割

日ごろ学んでいるマーケティングや経営学の知識、独自で行う調査などにもとづき魅力的な商品提案を行う。

活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

2019年6月より各チームが活動をスタートし、同年10月の「秋カン」（中間報告会、法政大学）、同年12月の「冬カン」（最終報告会、近畿大学）においてその成果を発表した。残念ながら今年度は各テーマでの１位に選ばれたチームが清水ゼミからは出なかったが、これまでゼミや日頃の講義で学んだ知識を実際に活用する取り組みの集大成として、学生にとっては重要な機会となった。

指導教員および関係者の紹介

ご協力企業： Sカレ委員会 http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/
指導教員： 流通科学大学商学部 教授 清水信年
https://www.umds.ac.jp/academics/profile/index_sa/shimizu/

教員名	東　利一

企画名　Student Innovation Colleges（Sカレ）
「介護福祉に役立つマグネット商品」

商品開発型
企業

介護施設での観察

試作品

実際に使ってもらう

企画・活動概要

1. 観察

介護施設を訪問した時に、施設の自由時間に椅子に座ってボーッとしているだけの高齢者が何名か居ることに気が付いた。そこで、自由な時間に簡単に遊べたら、普段の会話がより弾み、施設での時間が楽しくなるのではないかと考えた。

2. 試作品制作

イラストを楽しめる大きさにしつつも、クリアを諦めない程度の難易度の実現を目指した結果、現在のサイズ感に落ち着いた。体験してもらった様子では、遊ぶ前に難しそうだという感想を抱いており、クリア出来た時には自分の脳はまだまだ元気であると、自信にも繋がった。また、ぱず缶を試してもらった過程では、缶という特徴的な形に対する会話や、絵柄に対する会話が生まれた。

3. 販売促進

パズルの難易度がどの程度異なるのか製作者自身も疑問だった。当然、他の者も同じ感想を抱くだろう。そこで、福祉機器の常設展示場に展示し、実際に体験してもらいたいと考えている。そうして認知拡大を図った後に、介護用品店やカタログ等で販売を予定している。

経緯・背景・目的

Sカレ（Student Innovation College）は、実際に商品化を目指す商品企画のインターカレッジである。その趣旨は、「未来のマーケター」の育成。大学は違えどもマーケティングを学ぼうと志を同じくする若い仲間たちが、互いに助け合いそして切磋琢磨し、商品企画の理論を学びつつ、それを実践していく中で、自らの企画をサイトで公開しユーザーからの意見を聴き、そこから改善した企画を企業に提案し、実現した商品を現実の市場において問う、というプロセスを体験する。
具体的には、次の4点が育成のカギである。
①商品化の実現
②実践的コミュニケーション
③リアルタイムの競争
④リアルの場での交流

取り組む課題

昨今、少子高齢化の影響で介護福祉社会の要望はますます高まっている。このことを背景に、介護福祉を受ける人だけでなく与える人に対しても便利で幸せになるような、フレキシブルマグネットの技術を活用した学生らしい豊かなアイデアを提案する。

本学（学生）の役割

「磁石を変え、社会に貢献したい。」という理念をもとに様々なマグネットを製作している「ニチレイマグネット」の課するテーマに対して、ターゲット層の生活の質が向上する商品の開発を行う。

活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

「介護福祉に役立つマグネット商品」のテーマで、商品化のチームとして採用されたので、今後具体的に企業と話し合いながら商品をつくり実際に販売することが求められるが、ここでは、これまでの活動で学生が成長した点や身につけた能力を述べる。

5月から始まった活動は決して順調なものではなかった。2チームあったなか1チームが分解し残りの1チームに統合された。また、中間発表でダメ出しを受け最終発表までに3回コンセプト創出・試作品制作を繰り返した。このような難局を乗り越えられたのは、ゼミ生が次の3つの力を身につけながら成長したからである。
①共通の目標を設定し追求する力
②率先垂範
③同僚支援

指導教員および関係者の紹介

ゼミ生：前列ー寺脇雛子、山本啓人
後列ー奥野葵、刈皓諭、酒井蓮

協力企業：「磁石を変え、社会に貢献したい。」という理念をもとに様々なマグネットを製作している「ニチレイマグネット」

指導教員：東利一